

フィリピンでの英語教育（４） —マニラでの語学短期留学を通して—

English Education in the Philippines (4): Through Study at a Language School in Manila

(2019年3月31日受理)

竹野純一郎 大橋 典晶 松浦加寿子 佐生 武彦
Junichiro Takeno Noriaki Ohashi Kazuko Matsuura Takehiko Saiki
佐々木公之 藤代 昇丈 伊藤(福田)衣里*
Kimiyuki Sasaki Noritake Fujishiro Eri Fukuda-Ito

Key words : フィリピン, マニラ, 短期留学, マンツーマン授業, セブ

概 要

本稿では、中国学園大学国際教養学部が開講する海外留学科目の一つである「オリエンテーション海外研修」留学プログラムについて、2015、2016、2017年度に続いて報告する。4年目である2018年度の短期留学プログラムは、前3回のフィリピン・セブ島にある語学学校での実施とは異なり、フィリピンの首都ルソン島マニラにある語学学校での実施となった。プログラム内容・語学学校の簡単な紹介に加え、参加した国際教養学部1年生を対象に実施したアンケート結果から本プログラムの意義を検討する。また、前3回の結果と比較し考察を加えることで、フィリピンでの4年間の語学短期留学の成果や課題を総括する。

1. はじめに

中国学園大学国際教養学部（以下「本学部」という。）は、2018年度も2015、2016、2017年度に引き続き、フィリピンにて「オリエンテーション海外研修」留学プログラムを実施した。ただし、今回の研修はセブ島ではなく、フィリピンの首都であるルソン島マニラにある語学学校での実施であった。本学部の人材育成における留学プログラムの位置づけについては、竹野ほか（2016）に記しているのでここでの重複は避けたい。本稿では、2018年度に「オリエンテーション海外研修」で実施した、マニラでの短期留学プログラムについて、前3回の実績と比較・考察をしながら報告する。

2. 「オリエンテーション海外研修」短期留学プログラム

本学部の「オリエンテーション海外研修」のユニークな点は、大学生活へのオリエンテーションという意味合いから、入学後約1か月の頃に実施していることである。渡航先は東南アジアの国で、研修期間は往復を含めた約2週間のプログラムになっている。期間中は、現地の大学または語学学校で提供されるESL (English as a Second Language) の授業に参加し、他国の留学生と共に英語でのコミュニケーションのスキルを学ぶことになる。英語研修以外でも、社会貢献・文化交流活動などを通して、異文化で生きる術の習得や、人間力の強化を目指している。

研修先について、2015、2016年度は、フィリピンのセブ島にある語学学校 SMEAG Global Educationでお世話になった。2017年度は、同じくセブ島にある語学

*早稲田大学

学校Cebu English Academyでの実施であったが、今回の2018年度は、ルソン島マニラにある語学学校WEXCEL Language Center（以下、「WEXCEL」という。）での短期留学研修であった。なお、「オリエンテーション海外研修」の単位認定、費用、安全性の確保については、竹野ほか(2016)に詳しいのでここでは省略する。

今回のプログラムの参加者は、本学部1年生34名であり、同行者は、教員2名（大橋・松浦）であった。入学後間もない海外での短期留学プログラムであり、海外渡航が初めてという学生が多かったため、事前研修は必要不可欠と考えた。まず、4月2日に催された入学式後の学部入学式の際に、新入生および保護者に対して簡単なプログラムの説明を行い、それ以外に4回の事前研修を行った。第1回と第4回は、語学学校WEXCELと旅行会社である株式会社アジア・コミュニケーションズにご協力をいただき、その他の研修は、過去の引率経験を生かしながら竹野が中心に担当した（表1参照）。

3. 短期留学先としてのマニラとセブの比較と英語使用の実情

竹野ほか(2016)の「3. なぜフィリピン・セブなのか」、竹野・藤代・伊藤(福田) (2017) の「3. 英語留学先としてのフィリピン」では、それぞれ一章ずつ割いて、フィリピン、中でもセブ島で英語留学をするメリットやフィリピン人の国民性について論じた。竹野・佐生・大橋・松浦 (2018) の「3. 渡航先としてのフィリピン」では、フィリピンと日本との関わりを、それぞれの国を渡航先として見た場合について検証した。本章では、短期留学先としてのマニラとセブの比較をし、英語使用の実情を記したい。

日本政府観光局(JNTO) (2018)によると、2017年のフィリピンの人口は約1億530万人である。ルソン島にあるフィリピン共和国の首都マニラ市の人口は約1,780万人、セブ島セブ市の人口は約923万人である。マニラ市が属するメトロ・マニラ（マニラ首都圏）は、旧首都であり最大の都市ケソンを含む16市1町から構成されており、

表1 短期留学プログラム事前研修スケジュール

月日	時間	研修内容	配布物
第1回 4月6日(金)	9:20~10:50	短期留学の概要について WEXCEL について 学校での過ごし方・諸注意 フィリピン滞在における注意事項 海外旅行保険のご案内	旅のしおり WEXCELパンフレット フィリピン滞在注意事項 海外旅行保険申込書
第2回 4月10日(火)	9:20~10:50	短期留学プログラムの目的・意義について フィリピン・マニラについて	Questions about the Philippines (フィリピンについてのQ&A)
第3回 4月17日(火)	9:20~10:50	短期留学に関する注意事項 持参すべきもの・心構え 学外アクティビティーについて【現地大学生との交流・コレヒドール島ツアー】 オプションツアーについて【マニラ市内観光およびショッピングセンター】	フィリピン研修に関して 学外アクティビティーについて オプションツアーについて
第4回 4月24日(火)	9:20~10:50	事前研修のまとめ 直前オリエンテーション（最終確認） ・機内持ち込み荷物に入れるもの ・モバイルWi-Fiについて ・集合場所について	保険証書 航空便の案内（E-チケット）

東京、ジャカルタ、ソウル、デリーに次ぐ世界第5位の大都市圏を形成している。セブ市が中心都市であるメトロ・セブ（セブ都市圏）は、セブ島およびリゾート地として有名なマクタン島などの小島を含む7市6町で構成されており、フィリピンではメトロ・マニラに次ぐ第2位の大都市圏である。

マニラとセブの生活費の比較をするために、Cost Of Living Comparison - Numbeo で、生活費指標（cost of living index）を検証してみた。ニューヨークの生活費指標を（100）とした際に、マニラ（39.58）、セブ（37.40）という数値であった。マニラとセブを比較した場合、マニラの方が少し生活費はかかると考えられる。参考までに、東京（87.17）、ロンドン（83.53）、大阪（80.35）、シドニー（79.52）、北京（45.29）という生活費指標であった。次に、マニラとセブの治安について比較をするために、Crime Comparison - Numbeo で、犯罪指標（Crime Index）と安全度（Safety Scale）を検証した。犯罪指標は、マニラ（59.41）、セブ（45.86）、安全度は、マニラ（40.59）、セブ（54.14）という数値であった。マニラとセブであれば、セブの方が治安がよいといえそうである。参考までに、犯罪指標は、ロンドン（52.19）、北京（50.15）、ニューヨーク（43.06）、シドニー（37.78）、東京（16.99）、大阪（15.79）という数値であり、安全度は、ロンドン（47.81）、北京（49.85）、ニューヨーク（56.94）、シドニー（62.22）、東京（83.01）、大阪（84.21）であった。東京や大阪など、日本の都市の治安のよさが際立っていることがわかる。マニラとセブの生活費や治安の比較に関して、参考にした数値は概ね正しいと考えられるが、必ずしも実情を正確に反映しているとは限らないことを付言しておきたい。

鳴澤（2015）は、フィリピンの英語学校は8～9割がセブ島に集中しているが、最近では首都マニラに留学する動きもあるようであると報告し、福屋（2015）は、日本からの語学研修者の9割がセブを選ぶ理由として、日本人はセブと聞けば美しいビーチの南国のイメージがあることが一因であるとしている。本学部は過去3年間、フィリピンでの英語留学の中心地であるセブを選び、今回は、治安の面に配慮しつつ、首都であるダイナミズムという優位性や、WEXCELがいわゆる文京区に位置し安全性が確保されるとの判断から、マニラでの短期留学を選んだ。

本稿では、短期留学先としてマニラとセブのどちらがよいという結論を導くことはない。それぞれ異なる魅力があり、語学学校によっても印象は変わるので一概にどちらがよいとはいえないからである。

フィリピンの言語であるが、メトロ・マニラを中心として話されているのが公用語であるフィリピン語（フィリピン語）、実質的にはタガログ語である。ルソン島とミンダナオ島には含まれた、ビサヤ諸島の中部ビサヤ地方にあるメトロ・セブでは主にセブアノ語が話される。タガログ語とセブアノ語は、いずれも母語話者が1千万人を優に超えるフィリピンの主要言語であるが、相互に意思疎通ができない別々の言葉であるため、フィリピンのもう一つの公用語である英語が重要になるのだ。フィリピン政府観光省HPでは、言語について、「フィリピンでは英語が広く共通語として使われており、アメリカ・イギリスに次いで世界で3番目に英語を話す人口が多い国」、「フィリピン独自の言語で代表的なものはタガログ語。もともとはマニラ周辺で使われていた言語で、テレビ・ラジオなどのメディアを通じて全土に広まった」という情報が記されている。加えて、「各地にはそれぞれ独自の言語も残っている」との説明がある。第一執筆者がセブでの短期留学に引率した際、語学学校のフィリピン人講師が、「私がタガログ語を聴いて理解できたとしても、母語であるセブアノ語のようにタガログ語を話すことはできないので、結局マニラの人との会話はお互いが理解しやすい英語になる」という内容の話を聴く機会があった。マニラとセブに住むフィリピン人同士の英語使用の一例ではあるが、多言語国家フィリピンの実情を垣間見ることができた。

4. 短期留学期間中の様子

短期留学プログラムは、2018年5月6日から5月16日までの全日程11日間での実施であった（付録1）。過去3回に比べて日程が短くなっているのは、航空便の関係と週末に帰国した場合、翌週からの学業に支障をきたす恐れがあるという配慮からである。日程がやや短縮したことを補うために、現地大学生との交流に加え、土曜日のコレヒドールツアーも全員参加の学外アクティビティとして充実させた。さらに、日曜日のオプション

ルツアーである市内観光及びショッピングセンターの散策についても、文化視察という名目で全員参加を求めた。授業スケジュールは個人向けに組まれており、1日の大まかな流れは表2のとおりである。マンツーマン授業、先生1：生徒2の授業、グループワークの時間帯は学生によって異なっていた。

表2 WEXCELでの1日の流れ

時間	内容	授業内容
6:00	起床	
7:00	朝食	
8:10-10:00	授業(100分) 10分間休憩あり	マンツーマン授業
10:10-12:00	授業(100分) 10分間休憩あり	先生1：生徒2の授業
12:00	昼食	
13:10-15:00	授業(100分) 10分間休憩あり	マンツーマン授業
15:10-17:00	授業(100分) 10分間休憩あり	グループワーク (プレゼンテーション 準備)
17:00	ミーティングなど	
18:00	夕食	
19:00	自由時間	

基本的に、マンツーマン授業、先生1：生徒2の授業、グループワーク形式の授業が行われ、50分を1コマと考えると、1日8時間目まで英語浸けの生活であった。マンツーマン授業は講師の先生と本学部学生が1対1の形式であり、先生1：生徒2の授業は、先生1人に対して学生2人で授業を受ける形式であった。グループワークでは、3つのグループに分かれ、それぞれグループ内でテーマを決めて最終授業日にプレゼンテーションするための準備を行った。グループAは、「ゴミの散乱のためボラカイ島のビーチを閉鎖したフィリピン政府の判断」、グループBは、「伝統的授業スタイルと現代的スタイルの比較」、グループCは、「同性愛者同士の結婚を法制化することについて」というテーマであった。テーマの議論を深めるために、講師の先生の指導の下、グループ内で賛成派・反対派に分かれプレゼンテーションの準備を

行った。

WEXCELを簡単に紹介しておく。施設であるが、高層マンション中で完結しており、部屋には、テレビ、エアコン、冷蔵庫、電子レンジ、ポット、フォーク、スプーンやお皿まで備えていた。フィリピンではトイレトーパーを流すことができず、専用のゴミ箱に捨てるのが一般的であるが、WEXCELでは流すことができたので衛生的であった。日本人経営であり食事も日本食が中心に提供され、屋上には無料で使用可能なプール、一階にはコンビニエンスストアがあるため快適に過ごすことができる環境であった。難をいえば、収容できる人数が限られているため、通りをはさんだ別の建物にも本学部の学生と引率教員1名が割り振られたことくらいであるが、フィリピンでも有数の名門大学デ・ラサール大学が周辺にあり、学生街として治安がよく安全な地域であることも魅力であった。

表2のような生活の繰り返しの中、付録1の行程表で確認できるように、5月8日の午後、大学生・WEXCEL講師とのモール・オブ・アジア散策、5月12日は終日、コレヒドール島見学を学外アクティビティーとして企画、実施した。モール・オブ・アジアは、アジアにとどまらず世界でも最大級のショッピングモールであり、大学生やWEXCEL講師とともに散策することで、若者が多く将来の経済的成長が見込まれるフィリピンの活気を肌で感じることができた。コレヒドール島見学では、フィリピン側から見た太平洋戦争の歴史に触れた。5月13日の全員参加のオプションツアーでは、独立運動の英雄ホセ・リサールの記念碑があるリサール記念公園、サンチャゴ砦、続いて、すぐ近くにあるマニラ大聖堂を見学し、次に、世界遺産のサンオーガスティン(サンアグスティン)教会を訪れ、マニラ大学前を回ってモール・オブ・アジアで昼食、お土産を購入の後、マカティ市内を車中から観光し帰着するという日程であった。

全行程の詳細については、中国学園大学国際教養学部Facebookで写真とともに確認することができる。今回の短期留学の課外行事の一つであったコレヒドール島見学、そして研修の最終日のグループごとのプレゼン発表会の様子をここで紹介し、本プログラムが成功のうちに終了した報告としたい。

〔セブ島研修報告〕 By 大橋・松浦

2018年5月12日

DAY7

今日は、コレヒドール島の見学です。早朝5時半出発で、フェリー乗り場でパンとジュースの朝食をすませて、コレヒドール島についてのが11時前。

専用のバスにガイド付きで島内を廻ります。砲身に弾痕が残る砲台、日本軍兵士の鎮魂のための観音様、多くの日本軍兵士が焼かれたり自決したりした壕、兵舎跡、弾薬庫と迫撃砲など、島全体に遺跡が残ります。

お昼はビュッフェスタイル。近くに灯台があつて、上まで登れます。島を離れる前にビーチにも立ち寄りしました。帰りのフェリーでは、突然クルーが全員音楽に合わせてダンスを始めるサービスもありました。

暑い日で、36度の中の見学でしたが、全員が無事で、ほぼ予定通りの時刻に戻ることができました。

2018年5月15日

Day10

いよいよ研修最終日となりました。

今日のハイライトは、グループごとのプレゼン発表会です。1グループが2チームに分かれて、パワーポイントを使って発表しました。プロジェクタの調子がおもわしくなくて画面を使つての発表となりました。前日の夕食後の時間も使って準備したスライドと内容です。

発表は数分ですが、その後の質疑応答（もちろん英語）を含めて約30分のやり取りとなりました。準備してある内容を発表するのはそれなりにできましたが、質疑応答では、言いたいことが英語にならず、悔しい思いをしたと思います。指導の先生からはグラマー（広義）の弱さを指摘されました。もっと英語を頑張ろうという気持ちを持てれば、それも大きな成果だったと思います。

5. アンケート結果と考察

短期留学プログラムを終えた約1週間後に「マニラ短期留学研修アンケート」を実施した。質問と学生の回答を紹介し、過年度の結果と比較しながら考察を加えていきたい（表3参照）。

表3 フィリピン短期留学研修アンケート結果

質問項目	2018	2017	2016	2015
A) 事前研修に満足した。	4.10	4.35	3.31	4.26
B) 今回の海外研修全体に満足した。	4.58	4.85	4.15	4.47
C) マンツーマン授業に満足した。	4.58	4.85	4.50	4.47
D) 少人数の授業に満足した。	4.55	—	4.50	4.11
*2018年度は先生1：生徒2の授業、2016、2015年度は少人数（4人）でのディスカッション				
E) 集団での授業に満足した。	4.13	4.40	3.08	3.32
*2018年度は10人程度での発表準備、2017年度は10人程度、2016、2015年度は20人程度での授業				
F) (学外アクティビティーについて) 大学生・WEXCEL講師とのモール・オブ・アジア散策に満足した。	4.35	4.10	—	3.32
*2017年度はセブ国際空港見学とジョブセミナー、2015年度はマングローブ植林				
G) (学外アクティビティーについて) コレヒドール島見学ツアーに満足した。	4.23	4.40	4.92	4.21
*2017年度は市内観光（サントニーニョ教会・サンペドロ要塞）、2016年度は孤児院訪問、2015年度は小学校訪問				
H) 今回の研修を通して、スピーキングスキルが向上した。	4.00	4.30	3.88	3.53
I) 今回の研修を通して、リスニングスキルが向上した。	4.35	4.30	3.85	3.84
J) 今回の研修を通して、リーディングスキルが向上した。	4.00	3.85	3.54	3.58
K) 今回の研修を通して、ライティングスキルが向上した。	3.68	3.75	3.38	3.42
L) 今回の研修を通して、語彙力が向上した（単語の知識が増えた）。	3.90	4.20	3.81	4.00

M) 今回の研修を通して、今までより英語を勉強したいと思った。	4.74	4.80	4.58	4.37
N) 今回の研修を通して、今までより外国の文化に興味を持った。	4.71	4.65	4.58	4.32
O) 今回の研修に参加した経験は、将来の自分のためになると思う。	4.74	4.95	4.85	4.89
P) もし、このようなプログラムがあったら、また参加したい。	4.84	4.75	4.46	4.68

A)～P)の横の括弧内の数値は参加学生の回答の平均値である。括弧内の数値は〔2018年度(2017年度, 2016年度, 2015年度)〕の順で記載している。アンケートは5件法を用いており、全質問の平均は〔4.34(4.42, 4.09, 4.05)〕であった。参加学生は、項目に関して、「1 全く同意できない, 2 同意できない, 3 どちらとも言えない, 4 同意できる, 5 非常に同意できる」から最も当てはまるものを選んでいく。

A) 事前研修の満足度〔4.10(4.35, 3.31, 4.26)〕, B) 研修全体の満足度は〔4.58(4.85, 4.15, 4.47)〕であった。事前研修の満足度について、2016年度の事前研修の数値が低いが、これは、最初の2年間は語学学校の変更がなく、前年度の実績があったため事前研修以外からの情報が豊富であったことが影響した可能性がある。研修全体の満足度は2017年度が一番高いが、竹野ほか(2018)で述べたように、語学学校から歩いて数分の距離に大型ショッピングモールがあり、安全を確保できる範囲内で外出ができフレッシュしやすい環境にあったことも要因の一つと考えられる。

授業の満足度について、C) マンツーマン授業〔4.58(4.85, 4.50, 4.47)〕, D) 少人数授業〔4.15(—, 4.50, 4.11)〕, E) 集団の授業〔4.13(4.40, 3.08, 3.32)〕という結果であった。他の授業形態に比べると、4年間を通して常にマンツーマン授業の評価が高かった。マンツーマン授業では、レベルに合った授業を受けることができ、常に自分に話しかけてもらえるというコミュニケーション重視の理想的な授業形態であることが好結果の要因であろう。続いて、少人数授業の評価が高く、集団での授業の満足度は他の授業形態に比べて評価が低いという結果であった。集団の授業に関しては、グループを形成する人数や構成するメンバーが異なるので一概に比較はできないが、2018年度, 2017年度は10人程度, 2016年度, 2015年度は20人程度であり、人数が多いほど評価が低くなっているように解釈できるアンケート結果であった。

学外アクティビティーについては、F) 大学生・WEXCEL講師とのモール・オブ・アジア散策〔4.35(4.10, —, 3.32)〕, G) コレヒドール島見学ツアー〔4.23(4.40, 4.92, 4.21)〕という結果であった。2016年度を除いて滞在中に2回の学外アクティビティーを実施してきたが、アクティビティーの実施内容が異なるので比べることはできない。例えば、2015年度のマングローブ植林に魅力がなかったのかといえ、竹野ほか(2016)で記したように、早朝にもかかわらず耐えられないほどの暑さが原因であるなどの、その時の状況が結果に大きく影響しているからである。

次に、4技能や語彙力などの英語力に関する学生の回答であるが、H) スピーキングスキルの向上〔4.00(4.30, 3.88, 3.53)〕, I) リスニングスキルの向上〔4.35(4.30, 3.85, 3.84)〕, J) リーディングスキルの向上〔4.00(3.85, 3.54, 3.58)〕, K) ライティングスキルの向上〔3.68(3.75, 3.38, 3.42)〕, そして、L) 語彙力の向上〔3.90(4.20, 3.81, 4.00)〕という結果であった。総じて、スピーキングやリスニングといった音声でのコミュニケーションの方が、リーディング, ライティングといった文字によるコミュニケーションよりも向上を実感する学生が多いようである。

M) 今までより英語を勉強したい〔4.74(4.80, 4.58, 4.37)〕, N) 今までより外国の文化に興味を持った〔4.71(4.65, 4.58, 4.32)〕, P) このようなプログラムがあったらまた参加したい〔4.84(4.75, 4.46, 4.68)〕, これらの今後の意欲に関する質問項目は4年間を通して高評価であった。O) 今回の経験は将来の自分のためになる〔4.74(4.95, 4.85, 4.89)〕に関しても常に評価が高かった質問項目であり、今まで参加した本学部学生たちが、本プログラムの経験が有意義であると考えてくれたと総括できる。

6. おわりに

本学部の海外短期留学プログラムは初年度から数えて今回が4度目の試みであった。アンケート結果からも、入学約1か月後に海外でオリエンテーション研修を行うことは、非常に意義深いものであったといえる。一方、問題点としては、入学前の入学確定者にパスポートの取得の確認や催促からはじまりゴールデンウィークまでの運用面の煩雑さ、研修後は約2週間分の授業変更にともなう学生のスケジュール過重負担などが挙げられる。帰国後、学生たちがどれだけ短期留学プログラムでの経験をその後の自己実現に生かせるか、教員はどのようにその手助けができるのかが課題であると今まで繰り返し述べてきた。完成年度という節目の年を迎え、本学部は、プログラムの実施時期や留学先に関して再検討を行っている。短期留学研修が学生たちの将来のためになると信じ、本プログラムを発展的な形で継続していきたい。

ブック 世界20市場」

https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/jnto_databook_2018.pdf (2019年3月15日アクセス)

フィリピン政府観光省HP『プレミアム・リゾート・アイランド フィリピン』

<http://www.premium-philippines.com/> (2019年3月15日アクセス)

福屋利信 (2015) 『グローバル・イングリッシュならフィリピンで -セブ・シティから世界をつかめ!-』 東京：近代文藝社

Cost Of Living Comparison - Numbeo

<https://www.numbeo.com/cost-of-living/comparison.jsp> (2019年3月15日アクセス)

Crime Comparison - Numbeo

<https://www.numbeo.com/crime/comparison.jsp> (2019年3月15日アクセス)

引用文献

竹野純一郎・福田衣里・梅原嘉介・佐生武彦・小野山和男・大橋典晶ほか (2016) 「フィリピンの英語教育 (1) -セブ島での語学短期留学を通して-」『中国学園大学紀要』第15号, 131-140.

竹野純一郎・藤代昇丈・伊藤(福田)衣里 (2017) 「フィリピンの英語教育 (2) -セブ島での語学短期留学を通して-」『中国学園大学紀要』第16号, 237-246.

竹野純一郎・佐生武彦・大橋典晶・松浦加寿子 (2018) 「フィリピンの英語教育 (3) -セブ島での語学短期留学を通して-」『中国学園大学紀要』第17号, 191-201.

中国学園大学 国際教養学部 Facebook

<https://www.facebook.com/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%AD%A6%E5%9C%92%E5%A4%A7%E5%AD%A6-%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E6%95%99%E9%A4%8A%E5%AD%A6%E9%83%A8-694475763972301/> (2018年3月15日アクセス)

鳴澤 大 (2015) 「フィリピン英語革命」『AERA』No. 9, pp. 10-15

日本政府観光局(JNTO) (2018) 「訪日旅行データハンド

付録1：新入生オリエンテーション海外研修 行程表

	日付	曜日	時刻	交通機関	内容
①	5/6	日	10:00 10:28 12:10 12:30 12:45 15:30 18:25	新幹線 地下鉄 フィリピン航空	岡山駅南地下通路広場集合 岡山発 博多着 博多発 福岡空港駅着 PR425にてマニラへ マニラ着。スタッフがお迎えして宿舎へ
②	5/7	月	午前 午後		オリエンテーション（諸注意、危険回避のための順守事項説明他） レベルチェックテスト
③	5/8	火	終日		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。） 午後は他大学との交流
④	5/9	水	終日		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。）
⑤	5/10	木	終日		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。）
⑥	5/11	金	終日		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。）
⑦	5/12	土	終日		コレヒドール島ツアー
⑧	5/13	日	終日		オプションルツアー（マニラ市内観光及びショッピングセンター）
⑨	5/14	月	終日		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。）
⑩	5/15	火	午前 午後		語学授業（マンツーマン授業を中心に。レベルに合わせて授業。） 習熟度テスト。授業修了証書授与
⑪	5/16	水	6:30 7:30 9:45 14:30 15:30 15:45 16:10 17:52	フィリピン航空 地下鉄 新幹線	宿舎発 マニラ国際空港TERM2 到着 PR426便にて帰国の途に。 福岡空港着 福岡空港駅発 博多駅着 博多発 岡山駅着後解散